

## ◆港湾施設長寿命化対策事業費

### 1. 事業概要

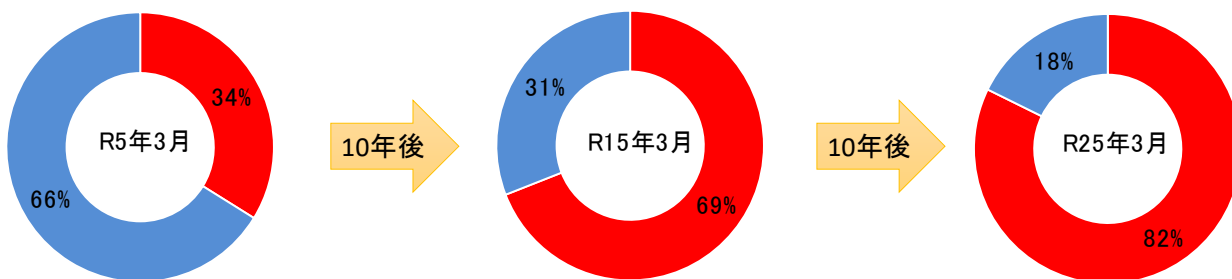
港湾の根幹を形成する防波堤や岸壁などのうち、竣工後50年以上経過する施設の割合が、10年後には約7割に達します。必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストを抑制するため、計画的な点検・診断と適切な対策工事による長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減を目指します。

### 2. 令和5年度実施内容

- ・岸壁、護岸等の港湾施設について、損傷、劣化、変状等がないか定期点検の実施
- ・岸壁、護岸等の港湾施設について、長寿命化対策に係る詳細設計や工事の実施

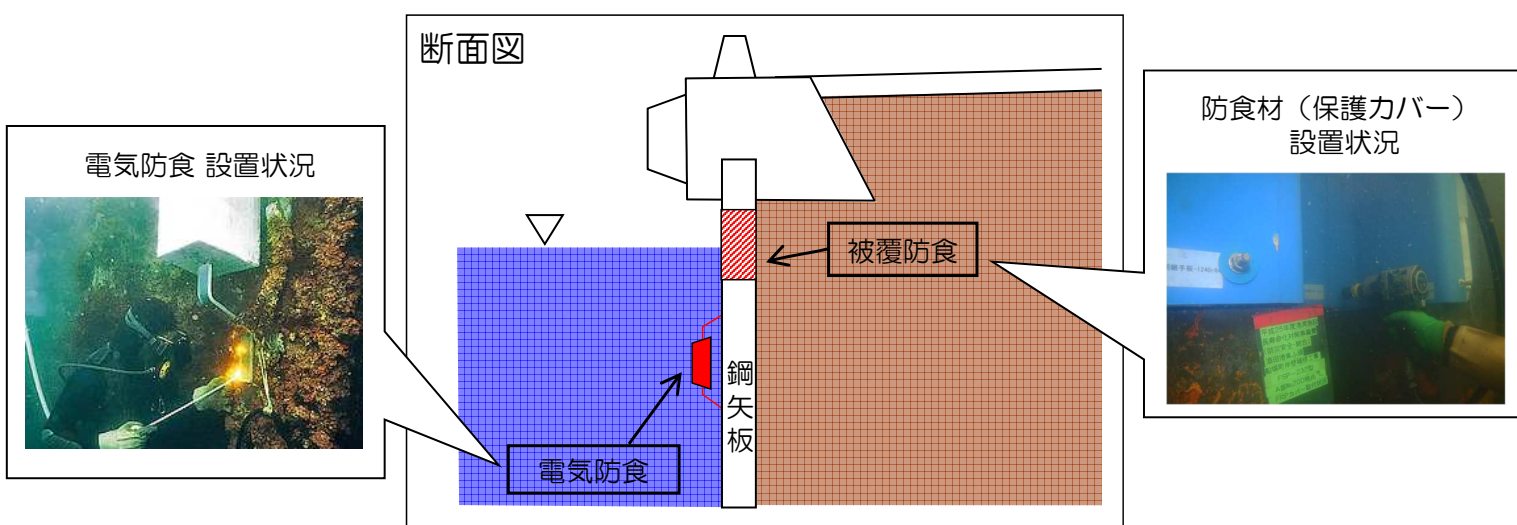
主要な港湾施設の建設後50年以上経過する施設の割合

■ 建設後50年以上経過する施設  
■ 建設後50年未満の施設



## ◆事例紹介：係留施設（岸壁）

【具体的な対策事例（岸壁の場合）】



【被覆防食】鋼材表面を各種材料（強化プラスチックやチタン）で覆い、腐食環境から遮断する。

【電気防食】鋼材より錆びやすい材料を鋼材表面に取り付けることで、鋼材を錆びにくくする。

# 1 安全・安心で持続可能な県土をつくる「やまがた強靱化」の推進

## ◆酒田港施設整備費【特別会計】（うち高砂埋立用護岸整備）

### 1. 事業概要

酒田港では、港内における船舶の航行安全性確保のため浚渫事業を計画していますが、これら港湾整備に伴い発生する浚渫土砂について、現在、酒田港で受入可能な埋立用護岸はないため、港湾計画（※）で位置付けられている高砂埋立用護岸の整備を行います。

※ 港湾計画とは、港湾管理者である県が今後の施設整備計画などを定めるもの（港湾法第3条の3）

### 2. 令和5年度実施内容

護岸設計及び設計に必要な地質調査、深淺測量等の実施



①酒田港の空撮



②酒田港の浚渫工事状況



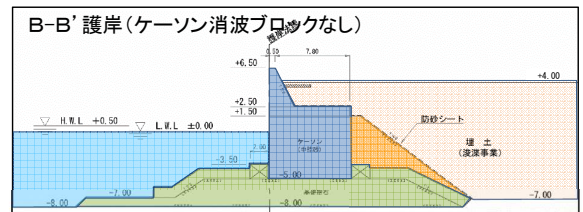
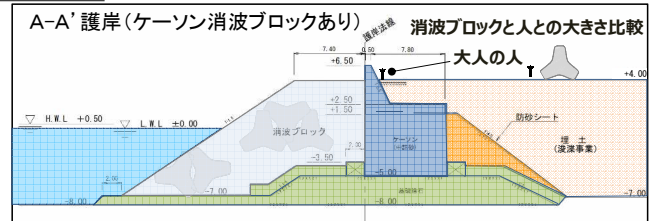
出典：国土地理院HP

## ◆高砂埋立用護岸整備のイメージ



令和3年7月撮影

### 標準断面図



冬季風浪による越波状況



ガット船の基礎捨石投入状況



ケーソン進水状況



消波ブロック据付状況



# 1 安全・安心で持続可能な県土をつくる「やまがた強靱化」の推進

## ◆空港整備事業費（うち山形空港脱炭素化基礎調査）

### 1. 事業概要

「ゼロカーボンやまがた2050」宣言に基づき、空港分野の温室効果ガスの排出削減に向けた取組みを実施します。

	目標	手法
2030年まで	温室効果ガス排出量50%削減(2013年比)	省エネ対策・再エネ導入拡大
2050年まで	温室効果ガス排出実質ゼロを目指す	新技術の導入

国土交通省 航空脱炭素推進基本方針:2030年度までに46%以上(2013年比)削減

#### 【空港での取組みの例】

- ・再生可能エネルギーの利用
- ・地上作業や点検で使用する車両のEV化
- ・消費電力の抑制(旅客ターミナルの照明、空調の省エネや航空灯火のLED化等) など

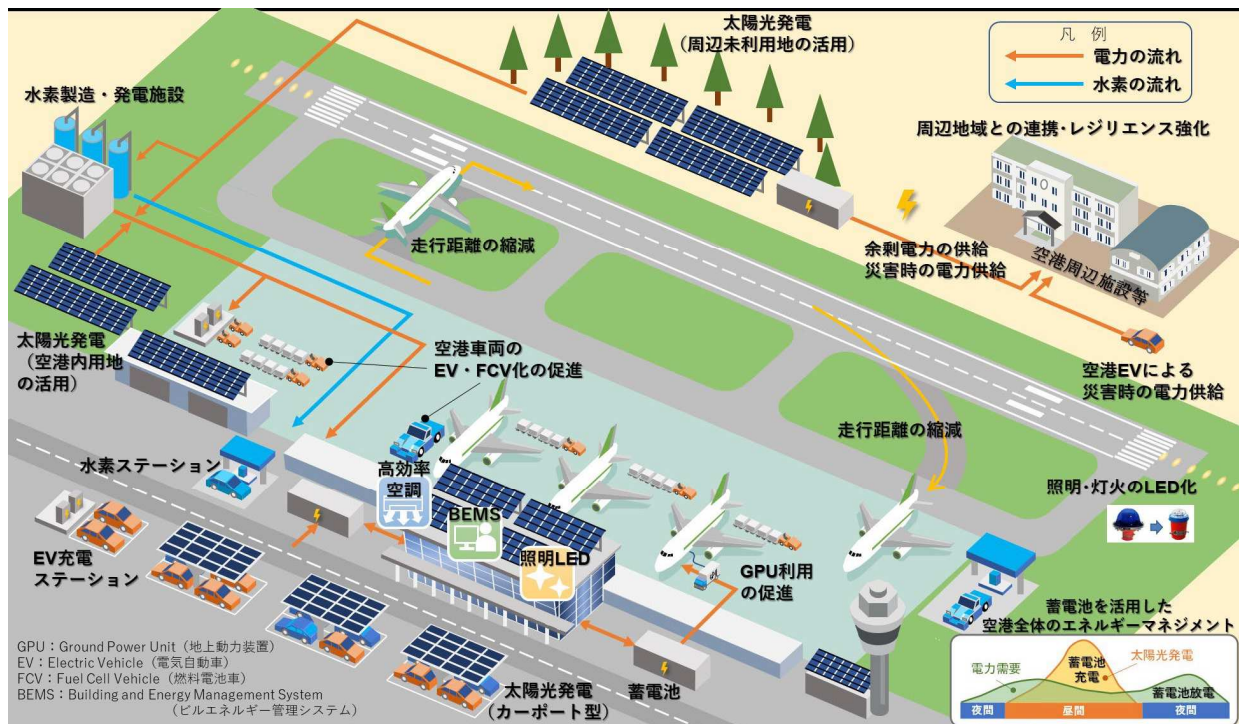
航空灯火のLED化(誘導路灯)



### 2. 令和5年度実施内容

空港の脱炭素化を検討するための、山形空港における温室効果ガス排出量の測定や電力需要のシミュレーション等を行う基礎調査の実施

## ◆空港の脱炭素化のイメージ



出典:国土交通省航空局「空港脱炭素化のための計画策定ガイドライン」